

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 345 回 「大変な年」の幕開け

2010.1.3

新年明けまして、おめでとうございます。

2010年、初めてのコラムである。いつも根気強く、このコラムにお付き合いして頂いていること、改めて、(紙上を通してだが)感謝申し上げたいと思っている。

さて平成22年「寅年」の始まりである。小生、占いの類は全く信じない不屈き者の代表であるが、それにしても、今年の運勢はよくない。

「四柱推命」では、2010年の庚寅の年は、寅の木の五行の上に、金の五行が乗っている形で表現されるという。金と木は相剋の関係、つまり二つは対立し、衝突の関係であるらしい。不運なことに、2010年は国際関係の紛争や不和を表し、衝突や戦争が起こりやすい年となる...なんて言われたら、誰でも嫌になってしまうかもしれない。確かに寅の年は、物騒なことが起こっている。たびたびドラマチックな変化と激変が起こり、寅の年に起こった世界戦争や韓国戦争の記録がその証であろう。

加えて個人的に...

小生の「星」は「四緑木星・火曜星」、今年の運勢は「凶」運気は低迷とある。物心ともに低迷気運。悩み事も多く、思うように進まない。焦れば深みにはまる。もがけばさらに落ちる。自己主張を抑え、周囲に合わせて動くこと。金運も良くないので節約を心掛けること。人間関係もトラブルが生じやすいので、特に言葉には注意すること。万事控えめで、誠実に事にあたれば無難。他人からの相談ごとにもなるべく避けるように。体調管理にも要注意...なんてこと、読んでしまったら、もう落ち込むしかない。これじゃ～、自前の商売もできないじゃん!!

あらゆる経済予測も、決していいものは無いようだ。世相はまだまだ厳しく、おそらく今年も景気は回復基調となり勢いが出てくるまでには時間がかかり、しばらくは忍耐が必要とされると思われる。

「大変な年」の幕開けである。不穏な風が流れている。

がむしゃらにチャレンジして、やたら手を広げるよりは、じっくり構え、自らを見直すことが、寅年の心構えかもしれない。そのためにはまず、自分(事業)を正さなくてはならない。寅年が持つ勢いを得るためには、しっかりと自分(事業)と向き合い反省すべきは反省し、謙虚さを持って生活(経営)しなければダメだということなのだろう。自らを正すことで、初めて、目標に向かいまっすぐと進むことができるのかもしれない。

虎は果敢に縄張りを守ることから、聖域を守る神獣にもされている。自らが守るべきものについて考える必要があるのだ。自分にとって大切なものは何か、人は大切なものを守る時にこそ大きな力を発揮するといわれている。それによって現在の厳しい状況を乗り越え、来年の発展へとつながる原動力となると考えるようになった。

今年の課題は新たな発展に向け、自らを正し謙虚さを持つこと。十二支の三番目にあたる寅は、12ヶ月に当てはめると三月。大地を覆う雪が徐々に春の暖かな陽気で融けはじめ、春の清らかな息吹で満たされる時期。たとえ厳しくとも清貧の心を持ち、大切なものを見失わずに支え合い、充実した一年にしたいものだ...そんな考えを新たに、年頭の業務に当る所存である。